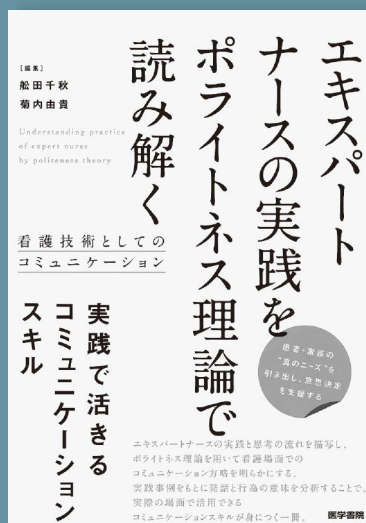


書評

エキスパートナースの 実践をポライトネス 理論で読み解く 看護技術としてのコミュニケーション



- 編集 船田千秋／菊内由貴
- 定価 本体 2800 円＋税
- 発行 医学書院

評者

神奈川県立保健福祉大学看護管理学 准教授
がん看護専門看護師
渡邊眞理

がん患者の相談場面で、 エキスパートナースはどのような 相談支援をしているのかを読み解く

ポライトネス理論を看護に

「ポライトネス理論とは?」。本書を手にした時の最初に感じたことである。

ポライトネス理論は、「社会で生きる人間が日常的に行う言語使用全般に関わる理論」とであると本書には記されている。そして、この理論を「看護師のコミュニケーション技術に限ってみた場合、より具体的に言語使用の手段を分析的に考察することを可能にし、これによって患者からの相談や支援のためのコミュニケーションの質向上につながる」とある。本書はポライトネス理論を看護のコミュニケーションスキルの育成のために活用することを目的としている。

内容は「理論編」と「実践編」に分かれて構成されている。「理論編」ではポライトネス理論の基本的知識とポライトネス・ストラテジー（方略）について説明され、実践編を読み解くのに役立つ。「実践編」では、エキスパートナースが対応したがん患者の相談支援の16場面について、ポライトネス理論を用いて解説している。

これらはがん患者を対象とした相談場面であることから、病状や治療・療養の場の選択、全人的苦痛、家族間の問題など複雑で困難な状況であることが多い。それらに対してエキスパートナースがどのような相談支援をしているのか？まさにタイトル通り、ポライトネス理論を用いて読み解いている。

「真のニーズは何か」を見極めるための関わり

私は本書を、「理論編」から「実践編」、また「理論編」へと行きつ戻りつを繰り返しながら読み進んだ。

印象的だったのは、患者の「寿命とは何ですか」という言葉から唐突に始まる相談場面であった。私自身が、がん患者の相談支援を担当していた時に、相談場面の最初にがん患者が話す言葉は必ずしも本当に相談したい内容ではなかったという体験をしていたからである。その体験から、常に対象者の「真のニーズは何か」を見極めるよう意図的に関わってきた。

このことについて本書では各ケースの最後に、相談のやり取りの始まり（入り口）と、異なる支援内容（出口）を示しており、そこで端的に表現されている。

「私だったらどう対応するか」—— 看護場面でのコミュニケーション スキル向上のために

各ケースでのエキスパートナースの相談支援内容は「なるほど」「すごいな」「そうしていたな」「私だったらどう対応するか」と思いながら読み、ポライトネス理論を用いると各場面がどのような意味付けになるのかということが理解できた。

看護場面でのコミュニケーションスキルの向上のためにお勧めしたい1冊である。